

身体表現における注目領域の抽出

—7-motives を素材とした視線分析—

神戸大学大学院 阪田真己子・神戸大学 柴真理子

1. はじめに

筆者らは、身体表現から感情を読み取る際に、観察者が表現者の身体の中のどの部分からそれを受容しているのかということについて研究を行っている。そこで、本研究では、アイカメラを用いて観察者の視線分析を行うことにより、身体表現から印象を受容する際に、実際、観察者が表現者のどの部分に注目しているか（以下、注目領域とする）を客観的に計測し、身体表現とその認識との関連性について一側面を実証的に明らかにすることを目的とする。尚、本研究では、印象と身体運動との関連性が実証的に明らかにされている松本の7-motives を素材として用い、各 Motive の印象と動き、その注目領域について検討を行った。

2. 研究方法

2.1 観察者

K大学の一般学生計5名（男子3名、女子2名）。

2.2 実験手順

観察者には、アイカメラ^脚を装着した状態で松本の7-motives の映像を2回ずつ呈示し、Motiveごとにその映像から受容される印象を各 Motive の名称である「幸福な」「厳かな」「鋭い」「流れるような」「悲しい」「さりげない」「躍動的な」の中から口頭により一語選択を求めた。また、Motiveごとにアイカメラのキャリブレーションを行い、測定誤差が最小限になるよう努めた。

3. 結果と考察

いずれの Motive においても、特徴的に（手を伸ばす、膝を曲げる等）動いている身体部分を追跡する傾向が見られた（図2-1）。

次に各 Motive における5人の観察者（合計）の注目領域を頻度の高いものから並べたものを表1に示している。（但し紙面の都合上上位10位まで）

表1. 各Motiveにおいて注目頻度の高かった身体領域

happy	lonely	sharp	natural	solemn	dynamic	flowing
背景上頭	背景上頭	頭	背景上頭	背景上頭	背景上頭	背景上頭
胸	背景中胸	背景中胸	両手	両手	背景中頭	腰部
両手	両手	腹部	胸	胸	首	胸
背景中	背中	両手	首	腰部	両手	腹部
腹部	右手	首	背景中	腹部	右肩	首
両足首	胸	脇	右手	首	胸	背中
背中	左前腕	腰部	腹部	両膝	背中	両手
左上腕	背景下	右手	左前腕	両足首		背景中
背景下	首	右上腕	両手足	左手		両膝

すべての Motive において「頭」の注目頻度が高いことから、我々が他者の身体表現を観察する際には、習慣的に相手の頭（または顔の表現）に注

目する傾向があるということが示唆される。また「背景上」がほぼすべての Motive において最も注目度の高い領域であり、また「背景中」も全般的に注目度が高かったことより、我々が他者の身体表現を認識する際、身体の部分（セグメント）を追跡しているのみではなく、「腕と腹で囲まれた空間（図2-2）」や「両手で作られた空間（図2-3）」、また「身体の延長線（図2-4）」など、我々の身体がつくりだす「身体空間」を含めた身体全体からその印象を受容している可能性を示唆するものであると推察されよう。

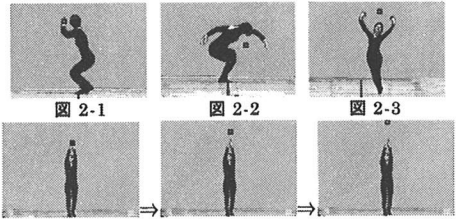


図 2-4

また、すべての観察者において、上記のような注目領域は、Lonely Mv. や Solemn Mv. など、比較的ゆっくりとした Motive ほど顕著にその傾向が見られ、一方すばやい動きと大きな移動からなる Dynamic Mv. においては、視線が身体の動きよりもやや遅れて追跡するといった傾向が見られた。従って、動きのスピードと移動空間が注目領域に影響を与えていることが推察されると同時に、この結果は、Motive 全体の印象に影響する要因としてのスピード・移動空間の重要性を示唆するものであると推察できよう。

4. まとめ

本研究において明らかになった身体表現における注目領域は、1. 動いている身体部分、2. 頭（顔）、3. 身体空間であった。O.F.Bollnow は、「舞踊体験においては主体・客体が解消され、人間は空間と一体になる」と述べ、一方、J.J.Gibson は「人間の知覚は受動的なものではなく能動的なものである」と提唱しており、本研究の結果は O.F.Bollnow の空間理論や J.J.Gibson の情報抽出理論などを始めとする哲学的論考を少なからず実証的に裏付けるものであると言えよう。今後は、本研究で示唆された注目領域としての身体空間の存在をより実証的に検証すると共に、スピード・移動空間との関連性や演者が複数であった場合の注目領域についても明らかにしていきたいと考えている。

註）実験は(株)ATR 知能映像通信研究所の協力を得て行い、アイカメラはナック社のアイマックレコーダEMR-7を使用した。

【主要参考文献】

「ダンスの教育学1」松田・松本監修 徳間書店 1992
 「人間と空間」O.F.Bollnow 著 大塚他訳 せりか書房 1978
 「生態学的視覚論」J.J.Gibson 著 古崎他訳 サイエンス社 1985